

野田の 津久舞

令和八年七月十八日
午後七時三十分



津久舞

祭

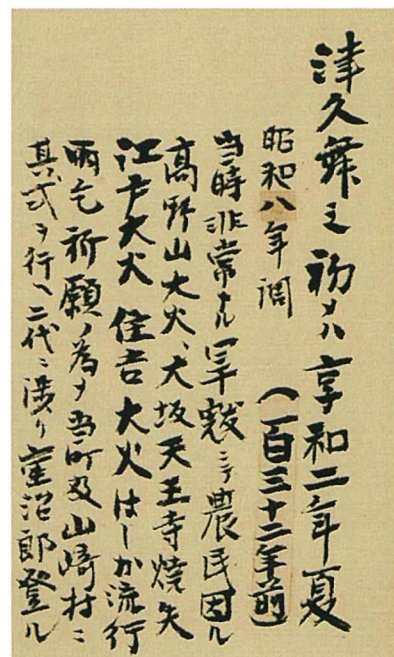
日時：令和8年7月18日(土)
式典：午後7時 須賀神社境内
奉納：午後7時30分 キッコーマン駐車場
状況により時間の変更があります お早めにご来場ください

※駐車場は野田市立中央小学校裏校庭となります 台数に制限があります
野田夏祭りと津久舞表紙画 野田市郷土博物館所蔵 絵澤田賢氏著作 写真提供 倉田大智氏



野田の津久舞(つくまい)

千葉県指定無形民俗文化財・国選択無形文化財・ちばの資産150選



津久舞の初めは享和二年夏

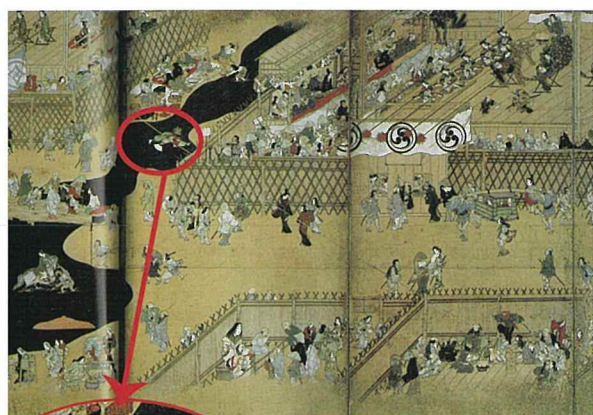
昭和八年調べ（百三十二年前）
当時非常なる旱魃にて農民困る
高野山大火、大阪天王寺焼失
江戸大火 住吉大火 はしか流行
雨乞祈願のため当町及び山崎村にて
この式を行い二代に渡り重治(次)郎登る

蜘蛛舞から津久舞へ

寛永期から寛文期製作（一六五〇年ころ）と推定される
四条河原遊楽図屏風（ボストン美術館所蔵）に津久舞そっくりの衣装と軽業が描かれている。
当時祭礼などで行われていた蜘蛛舞が津久舞の源流ではないかといわれている。

起源と現在

土地の古文書によれば、享和二年（一八〇二年）夏の旱魃のときに雨乞い祈願のために行ったのが始まりとされる。



津久舞のルーツとされる蜘蛛舞

面・扇・たっつけ袴
津久舞衣装と同じ



底抜け山車

【現在の津久舞】
毎年、七月中旬に行われる須賀神社の祭礼「三ヶ町夏祭り」の中で、津久舞が奉納される。
津久舞奉納までの一日の流れは、三ヶ町（上町・仲町・下町）への「底抜け山車」によるお触れ、当番町内で行われる式典、つく舞会場までのお練り、そして津久舞の披露となる。
津久舞は、津久柱（高さ十四、五m）の上で蛙の面をつけたジュウジロウさんと呼ばれる舞男が四方に破魔矢を射たのち白蛇（大蛇（おろち））をからかいたぶる。その姿を見た雨や風を司る水の神であり、自然のエネルギーそのものとされる大いなる存在。龍神が怒り雷を雨を降らせるという物語を舞う。
柱の中ほどでは反りを見せたり、柱上では、寝転がり、大蛇をからかう。大技逆立ちを行う。
この命がけの演技を須賀神社に奉納し雨を与えてもらうというこれを「野田の津久舞」と称します

令和8年度三ヶ町夏祭り日程表

7月17日(金)	渡御式典	下町須賀神社	10:00
	三ヶ町連合渡御	三ヶ町区域	18:00 下町須賀神社前出発
7月18日(土)	津久舞式典	下町須賀神社	19:00 下町須賀神社
	津久舞お練り	須賀神社～	19:15 須賀神社から津久舞会場へ
	津久舞奉納	津久舞会場	19:30 時間は状況により変更
※津久舞は30分位、時間が前後する場合があります早目のご来場をお願いします			
7月19日(日)	町内祭礼	各町内	各町内祭礼関係者に確認ください
7月19日(日)	還御式典	上町愛宕神社	17:25
	三ヶ町連合還御	三ヶ町区域	17:45～21:30迄 須賀神社宮入

<https://www.tukumai.com/>

mail:info@tukumai.com
津久舞に関するお問い合わせはメールにて

野田津久舞保存会
会長 岡田 正司

神輿年番：上町区 獅子年番：仲町区 津久年番：下町区

参考文献：野田の夏祭りと津久舞 野田郷土博物館刊行

三ヶ町夏祭り実行委員会